

科目名	第二言語習得論特殊研究	担当者	ホサカ 保坂 トシコ 敏子	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>近年、学習の社会性が注目されるようになり、第二言語習得の研究において、学習者個人の中で起きる認知過程の変容を研究する認知主義的なアプローチだけでなく、学習者が社会的な相互作用を通してことばを我がものにしていく過程を研究する社会文化的なアプローチが増えてきている。本講座では、後者に着目し、第二言語習得を社会文化的な観点から研究するための視座と実践研究について理解を深め、自身のフィールドに応用して、研究計画が立案できるようになることを目的とする。</p>		
到達目標	<p>文献講読を通して、社会文化的アプローチにおける学習・習得の概念、並びに、学習・習得の研究に対する視座を理解し、それを説明できるようになること、また、社会文化的アプローチによる教育実践に関する論考を通して、現在社会文化的アプローチが求められている理由について考察することを目標とする。</p> <p>これを踏まえて、履修者が関わる言語教育領域の社会文化的アプローチによる研究について文献研究を行い、最終的には、自分自身のフィールドに応用した研究計画書（案）を作成することを目標とする。</p>		
学修方法	<p>前期は、基本教材を講読し、必要に応じて参考図書やその他の文献をさらに講読して課題リポートを作成する。課題リポートは、教師のフィードバックを受けて修正する。修正した課題リポートについて、ピア・ラーニングを行い、さらに推敲を加える。再提出したリポートについて、教師の確認を受けて、最終稿として完成させる。</p> <p>後期は、自分自身の研究領域の研究論文を複数集めて、それぞれの研究目的や方法、結果などの概要をリポートにまとめる。さらに、それまでに得られた知識を基盤に、自分のフィールドでの研究計画書を作成する。</p>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リポート課題1 締切：6月末</li> <li>・リポート課題2 締切：9月課題提出締切日</li> </ul> <p>&lt;後期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リポート課題1 締切：11月末</li> <li>・リポート課題2 締切：1月課題提出締切日</li> </ul>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	リポート	80%	論旨明確さ、内容の妥当性・独創性、構成・文章表現の妥当性、引用文献の適切性等
	平常評価	20%	ピア・レスポンスへの参加度、リポート添削への対応等
履修者への要望	<p>課題リポートは、草稿から最終稿にいたるまで、教師のフィードバックによる書き直し、ピア・レスポンスによる推敲、最終稿の完成と段階的に進めること。このため、草稿は最終提出の締め切り間際にならないように、早めに送ること。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 石黒広明（編著）            教材名： 『社会文化的アプローチの実際 ―学習活動の理解と変革のエスノグラフィー』（北大路書房，2004年） ISBN-10: 4762823899 3,500円+税</p> <p>本書は、社会文化的アプローチの学習の概念を概観した上で、:学習研究への新しい視座と:学習活動の新しいデザインを提示して、社会文化的アプローチがなぜ学習研究に求められているのかについて検討している。第二言語学習・習得に特化したものではなく、広く学習についての論考であるが、日本語教育の実践研究例が掲載されている。</p>
参考図書	<p>ワーチ著 佐藤公治他訳 『行為としての心』（北大路書房，2002） ISBN-10: 4762822863,200円+税            西口光一編著『文化と歴史の中の学習と学習者-日本語教育における社会文化的パースペクティブ』（凡人社，2005） ISBN-10: 4893585924 2,400円+税</p>
履修上のポイント	<p>第二言語習得に対する社会文化的アプローチによる研究に関連するまとまった書籍は、英語のものも日本語のものもまだ少ない。社会文化的アプローチそのものについて理解を深めたい場合は、ヴィゴツキーの理論にバフチンの思想を組み合わせた社会文化的アプローチを提唱しているワーチの書籍を参考にする。第二言語学習における社会文化的アプローチを知りたい場合は、日本語教育を対象とした西口の書籍やその他関連の論文などに自律的にアクセスし、積極的に理解を深めていただきたい。</p>
レポート課題 1	<p>第1章の社会文化的アプローチにおける学習・習得の概念を整理し、Part1の第2章～第4章の中から1章を選んで学習・習得の研究に対する社会文化的アプローチの視座を簡潔まとめて、認知主義の研究の違いについて考察する。（3,000字～4,000字）  <b>留意点：</b> 第二言語習得研究における社会的な視点と認知的な視点を比較した論文は、義永（2009）の論文などネット検索できるものがあるので、参考にする。</p>
レポート課題 2	<p>Part1の第5章～第8章の中から1章を選んで、社会文化的アプローチによる教育実践の概要を簡潔にまとめ、社会文化的アプローチが現在求められている理由について考察する。（3,000字～4,000字）  <b>留意点：</b> 言語教育に関わる章は第5章のみだが、他の章を選んでよい。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 石黒広明（編著）            教材名： 『社会文化的アプローチの実際 ―学習活動の理解と変革のエスノグラフィー』（北大路書房，2004） ISBN-10: 4762823899 3,500円+税</p> <p>本書は、社会文化的アプローチの学習の概念を概観した上で、:学習研究への新しい視座と:学習活動の新しいデザインを提示し、社会文化的アプローチがなぜ学習研究に求められているのかについて検討している。第二言語学習・習得ではなく一般的な学習についての論考であるが、日本語教育の実践の分析例が掲載されている。</p>
参考図書	<p>Lantolf, J. P. (Ed.) (2000). <i>Sociocultural theory and second language learning</i>. Oxford:Oxford University Press.</p>
履修上のポイント	<p>後期参考図書の Lantof (2000) や、前期参考図書の西口編著 (2005) に実践研究をに実践例を参考に、自分の分野の社会文化的アプローチによる第二言語習得・学習の研究を探ること。</p>
レポート課題 1	<p>前期の課題で学んだことを基に、自分の言語教育領域における社会文化的アプローチによる実践研究の文献研究を2本～3本探し、研究対象、目的、方法、結果などを簡潔にまとめ、言語習得に関してそこから得られる示唆について考察する。（3,000字～4,000字）  <b>留意点：</b> 自分の言語教育領域で見つからない場合は、他の領域で探す。その場合は、レポートにその旨明記すること。</p>
レポート課題 2	<p>これまで学んだ社会文化的アプローチの知識と、後期課題1の先行研究を参考にしながら、自分のフィールドにおける社会文化的アプローチによる言語学習・習得の研究計画書(案)を作成する。（3,000字～4,000字）  <b>留意点：</b> 研究計画書には、研究テーマ、研究の背景、研究の目的、研究の方法、期待される結果、研究の意義、参考文献について記述する。</p>

科目名	第二言語習得論特殊研究	担当者	モリ森 ヒロヒデ 博英	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	学際的で多岐にわたる第二言語習得論の中の特定の研究分野についての理解を深め、専門的な実験や調査による研究ができるようになることを目的とする。		
到達目標	第二言語習得研究の領域の中で、Ellis (2008) の「学習者言語の性質」、「第二言語習得の内的要因」、「第二言語習得の外的要因」、「第二言語習得の個人差」、「脳と第二言語習得」、「教室第二言語習得」のいずれかに焦点を当て概観し、履修生各自の研究と関連付けながら今後の展望を考察する。また、履修者の研究領域に関する文献研究を通して専門知識をさらに深めていく。これらに加えて、実際に調査・実験することを念頭においた研究計画書の作成も試みる。		
学修方法	レポート課題を提出して形式的および内容的な指導を受ける。その指導をもとに課題を修正して再提出をする。このプロセスを繰り返して段階的にレポート課題を仕上げていく。		
スケジュール	課題の初稿の提出締切は、基本教材1のレポート課題1は5月末、基本教材1のレポート課題2は6月末、基本教材2のレポート課題1は10月末、基本教材2のレポート課題2は11月末とする。この予定に変更がある場合は、担当者より履修者にメールで連絡をする。再校以降については、添削物が返却後2週間以内に提出すること。但し、締切の変更を要する場合は、なるべく早めにスケジュール調整の依頼を担当者までメールで通知すること。		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	50%	レポートの最終稿の形式や内容を評価する。
	平常評価	50%	レポート課題の提出やレポート添削後の修正について評価する。
履修者への要望	メール等で随時通知する。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： Rod Ellis 教材名： “The Study of Second Language Acquisition (Second Edition)” (オックスフォード大学出版, 2008年) ISBN:978-0-19-442257-4 11,130円 [ペーパーバック]
	本書 The Study of Second Language Acquisition (Second Edition)は第二言語習得論のバイブルとも評されている必読書である。第二言語習得論をほぼ全て網羅しているため、1,000ページを超える分量であるが、明快で読みやすい内容構成となっている。巻末の用語集も充実している。
参考図書	佐野富士子・岡秀夫・遊佐典昭・金子朝子 (編)『第二言語習得 — SLA 研究と外国語教育』(大修館書店, 2011年) ISBN:978-4-46-914235-8 3,200円+税
履修上のポイント	基本教材や研究論文の内容が難しい場合は、参考図書等を併用しながら読み進めたり、担当教員に相談したりすること。
レポート課題 1	Part 2. Developmental patterns in second language acquisition, Part 3. Explaining second language acquisition: external factors, Part 4. Explaining second language acquisition: internal factors の中から 1 章選び、その内容を簡潔にまとめ、自分の研究と関連付けながら、その分野についての今後の展望を 3,200 字程度で述べること。 <b>留意点</b> ：各章末には結論が書かれているが、それを読まずに、まずは課題に取り組み、その後自分の書いた今後の展望と章末に書かれている結論とを比較して、自分の執筆内容を再検討することが望ましい。
レポート課題 2	自分の研究分野に関連する、学術誌に掲載されている研究論文を 5 本選び、その内容を簡潔にまとめ、自分の研究との関連について 3,200 字程度で述べること。 <b>留意点</b> ：論文は基本的には査読付きの学術雑誌に 2008 年以降に掲載されたものを選ぶこと。また、英語で書かれたものを 3 本以上とし、各論文の長さは、20 ページ程度以上であることが望ましい。レポートを執筆する前に、選んだ論文が課題として適切かどうか、担当教員にメールで相談すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： Rod Ellis 教材名： “The Study of Second Language Acquisition (Second Edition)” (オックスフォード大学出版, 2008年) ISBN:978-0-19-442257-4 11,130円 [ペーパーバック]
	本書 The Study of Second Language Acquisition (Second Edition)は第二言語習得論のバイブルとも評されている必読書である。第二言語習得論をほぼ全て網羅しているため、1,000ページを超える分量であるが、明快で読みやすい内容構成となっている。巻末の用語集も充実している。
参考図書	ハーバート・W・セリガー・イラーナ・ショハミー (著)『外国語教育リサーチマニュアル』(大修館書店, 2001年) ISBN:978-4-46-924457-1 2,800円+税 寺内正典・中谷安男 (編)『英語教育学の実証的研究法入門』(研究社, 2012年) ISBN:978-4-32-741081-0 2,800円+税 竹内理・水本篤 (編)『外国語教育研究ハンドブック—研究手法のより良い理解のために(改訂版)』(松柏社, 2014年) ISBN:978-4-77-540183-5 3,500円+税
履修上のポイント	基本教材や研究論文の内容が難しい場合は、参考図書等を併用しながら読み進めたり、担当教員に相談したりすること。
レポート課題 1	基本教材の PART 5 Explaining individual difference, PART 6 The brain and L2 acquisition, PART 7 Classroom second language acquisition の中から 1 章選び、その内容を簡潔にまとめ、自分の研究と関連付けながら、その分野についての今後の展望を述べること。 <b>留意点</b> ：各章末には結論が書かれているが、それを読まずに、まずは課題に取り組み、その後自分の書いた展望と章末に書かれている結論とを比較して、自分の執筆内容を再検討することが望ましい。
レポート課題 2	参考図書等を参考にしながら、第二言語習得論の分野で興味のある事柄について研究することを想定した研究計画書を作成すること。 <b>留意点</b> ：研究計画書のフォーマットについては、10 月末メールで通知する (基本的には、研究動機・文献研究・研究課題・研究方法・結果 (予想)・示唆 (予想) から成る)。